

通常国会を終えて



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

今年の1月23日に召集された第211回通常国会が6月21日に終了しました。今回の通常国会では3回質問に立ちました。1回目は4月13日の内閣委員会で審議された「新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律」(質疑時間15分)、2回目は4月19日の資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会(以下、資源調査会)で行われた「資源エネルギーと持続可能社会をめぐる情勢」(質疑時間10分)、3回目は4月25日の厚生労働委員会で審議された「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」(質疑時間35分)です。一つの質疑に対して約3分と考えると、15分の内閣委員会では6問、10分の資源調査会では3問、35分の厚生労働委員会では13問を作成しました。

国会の質問は法案に対する各省庁からの情報収集も重要ですが、それ以上に現場の先生方の声や状況を、事前によく伺っておくことが大事だと、今回強く感じました。内閣委員会ではコロナ禍において検査キット等の供給について現場で混乱が生じていたこと、資源調査会では安定ヨウ素剤の住民配布における問題、厚生労働委員会では後発品の安定供給や電子処方箋に関する問題など、先生方からお聞かせいただいた多くの声を、現場の声として国会に届けることができたと思います。国会閉会中はぜひ多くの先生方とお話をさせていただき、勉強したいと考えています。薬剤師の代表として、これからも国民の皆様が健康で活躍できる社会づくりのために、しっかりと活動してまいります。引き続き皆様のご支援をよろしく願いいたします。



ひたちなか市事業協力薬局視察